

完成した「行政区ずかん」を手に。「取材を通して地区による文化の違いを知りました」と副部長の米田拓磨さん(前列左から2人目)。サポートに訪れた「いたて村芸術発表祭」の会場にて。



東大むら塾代表の上野元輝さん。「村の人と密に関わりたい」と足しげく村に通っています。北海道栗山町では菅野牧園を営む菅野義樹さん家族(比曾)とも交流しています。

いたてに吹く新しい風



Shimva(シンバ)さん



郡山市で行われる単独ライブのリハーサルが続いていました。同市のギターデュオ「ジョニダン」さんと。

### 音楽をライフスタイルに 飯館村で歌を紡ぐ

「くまさん」と佐藤祐喜さん(上飯樋)が営む音楽スタジオ兼カフェの地域おこし協力隊に着任したシンバさん(本名・小川奈々恵さん)。タレントのなすびさんやテレビ局に楽曲を提供するなどシンガーソングライターとして活躍してきました。ライフスタイルの変化によるおよそ7年間の休止を経て活動を再開した昨年、くまさんとの出会いを契機に「歌は私の人生そのもの。等身大の生活から生まれてきます。飯館村の皆さんは家族や周りの仲間を大切に助け合って生きていて、それを感じる私の中にもいろいろな感情が生まれてきます。村に来てよかった。聞いてくれる人を勇気づけられるようなシンガーになりたいです」。

協力隊の同僚でピアニストの早野壮さん、くまさんとはハウスバンド「しんこきゆう」を結成。くまさんが「人間交差点」と呼ぶこの場所でも多くの仲間と共に、シンバさんの新たな挑戦が始まっています。

KUMA Sound House/  
つとい茶屋JAZZ喫茶くま

時 午前10時30分～午後5時  
休 無休※臨時休業あり  
飯樋字大火115-3  
☎090-1513-1917

### 村の人の暮らしや文化がもっと知りたい

#### 東大むら塾

「農業×地域おこし」をテーマに飯館村、千葉県富津市、北海道栗山町などで活動している東京大学の学生団体。飯館村では「いたてむらびとずかん」「行政区ずかん」を刊行。また、村内のさまざまなイベントのサポートに入り、村民との交流を深めています。



いたて村文化祭(令和7年10月)



まδειなマルシェ(令和7年9月)

昨秋むら塾の代表に着任した上野さんは現在2年生。去年6月に初めて村を訪れて以来、毎月のように足を運び、体験を通して飯館村を知ろうとしています。「現在村に住む皆さんは、村が好きで大切に思う人ばかりで構成されているのではないかと感じることはありません。そうした『純度が高い』状況は特殊だし、村のために何かをしようというパワーがある」。上野さんはそんな飯館村には大きな魅力があると語ります。「行政区ずかんのインタビューで区長さんが、人とのつながりや助け合いの大切さ、先人

への感謝、それらの文化を次世代につなぎたいという思いを語っていました。東京ではそんな答えは返ってこないでしょう」。上野さんは「村の人の普段の生活や文化をもっと深く知りたい」と考えるようになり、提案を受け入れてくれた村民と1日を共に過ごす密着も試みているそう。「村の皆さんと対等に話ができる、一緒に笑い合えるような関係性をつくりたい」と願っています。溶け込んでも学びたい。

村に通う担い手の1人、上野さんの目に映る飯館村、皆さんにはどう感じられたでしょうか。

#### いたて行政区ずかん

避難指示解除後の地域の様子を記録しようと令和4年にプロジェクトをスタート。令和6年1月に前半10行政区を掲載した1巻目を、令和8年1月に残る10行政区を掲載した2巻目を発行。行政区長へのインタビューを中心に、20行政区の歴史や文化、現在の状況などを取材し記録しました。村内の公共施設の窓口などに置いて配布をしています。



### とにかく飯館村が好きだから

浅原みゆきさんは元環境省の職員。研修で訪れた飯館村の大ファンになり、村に住んで福島地方環境事務所(福島市)に通勤をしていました。結婚を機に退職し地元の東京都で双子を出産。それでも「村に飲食店を開く」という夢への歩みはよどみなく、昨秋「カレー&カフェAndante」をオープンしました。「ふらりと立ち寄れる交流の場にした。飲み会にも利用していた。飲みたいですね」。



村内のイベントで。



浅原みゆきさん

村産ホーリーバジルを使ったガパオライスや月替わりのカレー、スイーツも美味。



古民家の趣を生かして。大家さんが営む宿泊施設の朝ご飯の注文にも応えます。



#### カレー&カフェAndante

飯樋字原361  
毎月5日間程度の期間限定で営業中。営業日・営業時間はInstagramで確認を。



Instagram